

# 「認知症にやさしいまちづくり」 図書館における取り組み



## なごや認知症NEWS

### NEWS

名古屋市の各図書館では、いきいき支援センターなどと協力し、認知症の啓発に関する様々な取り組みが行われていることをご存じでしょうか？これには、数年前から始まった「認知症にやさしい図書館」という全国的な広がりもあるといえます。図書館が取り組む意義はどこにあるのか？そして、それは地域の人々にどのように伝わっていくのか？そこを考えていくと、まちづくりの拠点としての側面が見えてくるようにも思えます。

**まずは、正しい知識を。「認知症になって  
も大丈夫」といった希望の持てる本も。**



今回は南図書館を訪れ司書の方にお話を伺いました。季節ごと・アルツハイマー月間(9月)などで「認知症と絵本」「当事者メッセージを読んでみる」「自由研究おうえん！親子で学ぼう認知症」など特色ある企画がなされています。そうした中でもやはり注目したいのは、認知症資料の常設コーナーが設置されていることです。

玄関を入り暮らしのコーナーに向かって進むと目立つところに「認知症コーナー」がありました。医学、闘病記、絵本、高齢者福祉など認知症関連本すべてをこのコーナーに配架し、まとめて閲覧できるようにしています(200冊程度)。また、南区いきいき支援センターや関連事業のパレットやチラシも配架されています。当事者やその家族を含め、何らかの理由で認知症について調べたいと図書館に足を運んだ人は、ワンストップで必要な本にたどり着きやすいのではないかと思います。以下、現在の担当司書の方のお話です。

「図書館はいろんな年齢層が集まるので、多世代の多くの人に啓発できます。認知症に関する社会的な認識が広まって、誰もが知るところとなりました。若年性認知症の人もいて、誰もがいつなるかも知れません。他人事ではなく自分事になりました。図書館でできることは本を提供することです。まずは、正しい知識を身につけられるように。そして、認知症の人が前向きに生きていけるよう、『認知症になっても大丈夫』といった希望の持てる本も提供できたらいいですね」。

「いきいき支援センターの助言・協力など、気軽に協力してもらえ環境が整っている」とも。加えて「職員全員が認知症サポーター養成講座を受講している」。そういえば、皆さん、そのマスコットキャラクター「ロバ隊長」を付けています。

来館者への対応も含め、図書館で「認知症にやさしいまちづくり」が続けられています。



コーナー全体の様子  
面展示された話題の本

### なごやの認知症の今が分かる

● 発行 ●  
名古屋市認知症相談支援センター  
n-renkei@nagoya-shakyo.or.jp  
052-734-7079 052-734-7199  
※本センターは、名古屋市社会福祉協議会が名古屋市から委託を受けて運営しています。

## 若年性認知症の人の社会参加 12月15日若年性認知症相談職員向け研修会

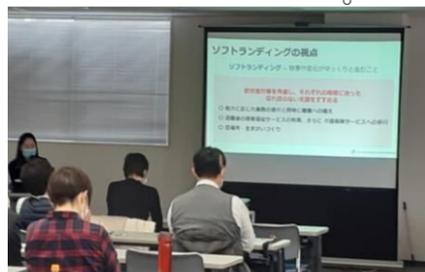
12月15日「若年性認知症の人の社会参加」をテーマに若年性認知症相談職員向け研修会を開催しました。当日は、齊藤千晶氏(認知症介護研究・研修大府センター)の「若年性認知症の人の社会参加の意義」と題した講演の後、市内で若年性認知症の社会参加活動に取り組まれている事業所の方に実践報告をしていただきました。

65歳未満で発症する若年性認知症は、医療・福祉・経済・社会参加の場等様々な課題を抱えています。「認知症になっても人の役に立ちたい、生きがいのある毎日を過ごしたい、自分らしく社会の中で生きていきたい」という認知症の人の思いを実現するために、社会参加支援の取組みが広がっています。

むすび(就労継続支援B型事業所)の東洋平氏からは、「認知症

であつてもなくても、その人がワクワクしながらなりたい自分の人生を送る支援を目指したい」と、やつとかめ(通所介護事業所)の久保裕児氏からは、「認知症の人が、自信や社会性を取り戻せるよう社会からの評価・感謝・期待を実感できることが大切」との言葉に、参加者の皆さんは熱心に聞き入っていました。

認知症の人の社会参加は、これからの大切な取り組みとなっていくと思います。今後、認知症の人が役割や生きがいを持つことが送るような地域づくりを進めていきます。



## 認知症とともに歩む人のまなざし 「彫紙アートと私」オンライン個展の開催

「切り絵をしている時は、不思議と気持ちが落ち着くんです」。

大関一成さん(66歳)は、建設会社に設計士として勤務していたころ、電話の伝言を間違えることなどがあり、病院を受診したところ「うつ病」と診断されました。休職しましたが体調が戻らず退職し、その後「若年性認知症」と診断されました。その頃のことを「認知症と言われて、どーんと来ました。『うつ』だと思っていたので、時間がたてば治るという希望のもとで生活してきました。仕方ないと思えるまで、時間がかかりました」と振り返ります。

閉じこもりがちな生活をしてきた時に、娘さんがテレビで「彫紙アート」を知り、一緒に体験したのがきっかけで、彫紙アート、切り絵に夢中になりました。「いつか、個展を開きたい」という思いを持ちながら作った作品は、ベン

ツ、オールドリー・ヘプバーン、夏祭りなど100点近くになります。この度、コロナ禍で多くの人に作品を観ていただくために、YouTubeで個展を配信することになりました。動画作成には、愛知淑徳大学のコミュニティ・コラボレーションセンターの学生にも協力していただきました。完成した動画を見た大関さんの言葉です。「皆さんに自分の作品を観てもらえることで、病気と戦う勇気をもたらえ、励みにもなりました」。

※動画は左のQRコードから視聴していただけます。ぜひ、ご覧ください

YouTubeチャンネルQRコード

はい、こちらは認知症「コールセンター」です！

令和3年12月末実績  
延相談件数 661件

今年度12月末までの相談延件数は661件でした。相談者の内訳をみると、家族からの相談が75%と最も多く、その内訳では娘が51%、息子が17%、妻が11%、息子の配偶者が10%でした。

お電話を受けたら丁寧にお話を聞き、不安な気持ちを受け止めることを大切にしています。お電話お待ちしております。

1日あたりの平均相談件数(令和4年1月)  
**4.2件**

なごや認知症の人  
**おでかけあんしん保険事業**  
【保険事業受付事務局】  
Tel 052-734-7099

認知症の人が事故を起こしたときに備える「賠償補償制度」

令和3年度12月末の加入件数 **1,657件**

名古屋HP

本人ミーティングリーフレット  
「認知症とともに歩む人のまなざし」届けよう、本人の声

このリーフレットは、名古屋市認知症相談支援センターで開催した「本人ミーティング」で語られた、本人でなければわからない不安や視点、今だから笑って話せることなど、多くの声をまとめて作成したものです。当事者の声は私たちに、ともに歩む勇気と覚悟を決める後押し、そしてこれからの生き方を示してくれれます。

ご希望の方は名古屋市認知症相談支援センターへ(052-734-7079)なごや認知症あんしんナビからもダウンロードできます。(下記掲載)